

# 大阪定期能楽公演 梅猶会 12月公演 大槻能楽堂

定期公演 午後1時開演 [開場 12時30分]

## 能 [楊貴妃] Youkihi

シテ 楊貴妃	梅若 基徳	後見 梅若 修一
ワキ 方士	福王 知登	立花 香寿子
間狂言	小西 玲央	地謡 梅若 猶義
笛	貞光 訓義	梅若 堯之
小鼓	清水 皓祐	井戸 和男
大鼓	山本 哲也	上野 雄介
		永田 克壬
		梅若 雄一郎

～ 休憩 10分 ～

## 狂言 [昆布売] Kobuuri

シテ 大名	善竹 隆司	
アド 昆布	善竹 隆平	後見 上吉川 徹

仕舞 屋島	梅若 猶義	地謡 池内 光之助
		林本 大
花筐狂	梅若 修一	山田 薫
		梅若 秀成

～ 休憩 10分 ～

## 能 [春日龍神 龍女之舞]

Kasugaryujin Ryunyo-no-mai

シテ 前・宮守 後・龍神	井戸 良祐	後見 梅若 猶義
前ツレ 宮守	梅若 雄一郎	梅若 基徳
後ツレ 龍女	立花 香寿子	地謡 梅若 堯之
ワキ 明恵上人	廣谷 和夫	齊藤 信輔
ワキツレ 従僧	喜多 雅人	林本 大
	矢野 昌平	山田 薫
笛	野口 亮	上野 雄介
		永田 克壬
小鼓	上田 敦史	
大鼓	大村 滋二	
太鼓	上田 慎也	

## 演目の解説

### [楊貴妃]

唐の玄宗皇帝は戦乱のもとになったとして殺された楊貴妃のその死後も思い続けて忘れることができません。

帝は神通力のある方士(ワキ)に命じて楊貴妃(シテ)の靈魂の行方を捜させます。楊貴妃の魂は蓬莱宮という不老不死の国に在り、方士は楊貴妃と逢えたしるしを何か頂く事が出来ないかと頼みます。

楊貴妃は自分の簪(かんざし)を渡すのですが、方士は簪ではどこにでもある…それより帝と密かに交わした二人だけの言葉を伺いたいと願います。

楊貴妃は七夕の夜契り合った秘め事を伝え、自分の前世は天上界の仙女である事、帝への思慕を残しながらもまた蓬莱宮に帰らざるを得なかったことを語り名残の舞を舞います。

[仙界]では永遠の命がある楊貴妃～それだけに玄宗皇帝への恋慕と哀愁の気持ちを永遠に背負わねばならぬ悲しさというものもこの曲はあるように思います。

### [昆布売]

供も連れずに一人で出掛けた大名。だんだん太刀が重く、偶然に通りがかった若狭の昆布売りの商人に同行を命じます。脅され太刀を持たされた昆布売り。我慢が出来なくなり太刀を抜いて大名を逆に従え昆布を売るように強要します。

立場が逆転した二人。脅された筈の大名は懸命に売り子を真似るのですが～

### [春日龍神]

鎌倉時代。明恵上人(ワキ)は、入唐渡天[仏教聖地巡礼の為に唐やインドに渡る]の為に信奉する春日大社にしばし日本を離れる挨拶に訪れます。そこで宮守(シテ)の老人に参詣の意図を伝えると、その老人は思い止まるよう説得し始めます。春日大社こそが聖蹟であり日本にもたくさん仏跡があるのだから他国に行く必要の無いことを語ります。その説得に明恵上人も留まる事を決めると、その宮守は[三笠山に釈尊一生涯の物語を映し出そうと告げ、自分こそ春日神の眷属・時風秀行の化身と明かし姿を消します。その後、三笠山には金色の光の中、仏の説法の間が現れてきます。

春日の地に集まり莊嚴とした法会を見せる龍神(後シテ)。この奇蹟を目の当たりにし、明恵上人は日本を離れる事はしないと神に約束すると、その言葉を聞き龍神達は猿沢池へと悠々と戻って行くという何ともスペクタクルなお能です。